

新見市国民健康保険保健事業計画(第2期データヘルス計画)令和元年度評価・令和2年度計画

別紙

●健康課題に対応した保健事業計画

事業名	目的	評価指標		評価	令和2年度		
		事業実施量評価 (アウトプット)	結果評価 (アウトカム)		目標	計画	
健康意識向上プログラム	健康情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 健康意識を高めるため、専門家による健康情報を発信する 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の状況 特定健診において生活習慣改善意欲ある人の割合 H30 28.6% R1 29.2% 	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病性腎症重症化予防の記事を市報に掲載はできなかったが、市内医療機関と関係機関にチラシを配布し、啓発活動を行うことができた。 糖尿病予防の行政番組を糖尿病対策連絡会、糖尿病専門医、市民と共同で制作できた。 特定健診において生活習慣改善意欲のある人の割合は低いため、引き続き、健康意識を高める工夫をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診において生活習慣改善意欲ある人の割合40% 	<ul style="list-style-type: none"> 【情報発信】 糖尿病重症化予防についての記事を市報に掲載する。 【行政番組による普及啓発】 R1年度作成した糖尿病予防の番組をiチャンネルで広報する。(月・水・金・日) 	
	特定健診受診勧奨	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診の効果、健診内容を周知し、特定健診受診率の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診受診率(法定報告) H29 38.2% H30 35.7% 特定健診受診率(40代) H30 22.3%(94人) R1 23.3%(84人) 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度の受診率はH29年度から低下している。H30年度は人間ドック医療機関の1医療機関の短期ドック中止による影響のため、受診率が低下した。 40歳代は健診無料化による効果もあり、受診率は上昇している。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診受診率: 40.0% 特定健診40代受診率: 25% 	<ul style="list-style-type: none"> 【国保加入時の受診勧奨】 国保加入手続きの際に特定健診受診勧奨チラシを配布する。 【受診勧奨活動】 国保20歳～49歳の健診無料について広報する。 市報と一緒にガイドブックを配布する。愛育委員が問診票配布時に受診勧奨の声かけをする。 医療機関への啓発チラシの配布。 	
	人間ドック実施	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診を、人間ドック形式の受診に換え、疾病の早期発見による被保険者のQOLの向上と医療費の削減を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 人間ドック申込受付先を医療機関に変更。 人間ドック申込受付期間: 4～5月 国保41歳人間ドック無料化通知 H30 対象者34人 R1 対象者29人 	<ul style="list-style-type: none"> 人間ドック(短期)受診率 H29 14.6%(816人) H30 12.5%(674人) R1 15.3%(802人) 国保41歳人間ドック受診率 H30 14.7%(5人) R1 20.7%(6人) 	<ul style="list-style-type: none"> 申込受付を医療機関に変更し、受診希望者が直接医療機関に申込できるようになり、利便性が向上した。 受付期間を2か月間に延長したことで周知期間が広がり、受診者が増加した。 H30年度から国保41歳人間ドック無料化を実施し、41歳の人間ドック受診者が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間ドック受診率: 20%国保41歳人間ドック受診率: 25% 	<ul style="list-style-type: none"> 申込受付を人間ドック実施医療機関で行う。 人間ドックの受付期間を4～5月とする。 国保41歳の節目人間ドック無料化実施。 市が契約していない医療機関で人間ドックを受診し、健診結果を提出をしていただいた方に、にーみんの箱ティッシュを進呈する。
	特定健診未受診者の受診勧奨	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診未受診者に働きかけ、特定健診受診率の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 再勧奨通知送付数 2,128件 	<ul style="list-style-type: none"> 再勧奨後受診率(R1) 40～49歳 10.9%(29人) 50～69歳 11.6%(215人) 特定健診受診率(40代)23.3%(84人) 	<ul style="list-style-type: none"> R1年度は40～69歳と対象年齢を広げ、封書から圧着ハガキ(カラー)に変更して送付し、受診券再交付依頼等の反応は多数見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 再勧奨後受診率: 12% 	<ul style="list-style-type: none"> 【個別通知勧奨】 集団検診終了後(10月)に、40～69歳の被保険者の内、健診未受診者へ通知。

新見市国民健康保険保健事業計画(第2期データヘルス計画)令和元年度評価・令和2年度計画

別紙

	事業名	目的	評価指標		評価	令和2年度	
			事業実施量評価 (アウトプット)	結果評価 (アウトカム)		目標	計画
地域の取組	健康を促進する地域で市民の連携の促進	市の医療費・健診結果から見える健康課題や改善のための取組の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療ネットワーク(実務者会議)年3回出席 医療・介護多職種連携会議への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民へ地域医療・看護・介護等の情報発信 年1回糖尿病について意見交換をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療ネットワークに年3回出席し、多職種連携会議で糖尿病についての講話・グループワークにも参加し、多職種との連携を深めている。 医療介護多職種連携会議へ出席し、糖尿病について意見交換等を行っている。平成30年度には市の取り組みについて報告している。 		<ul style="list-style-type: none"> 【新見地域医療ネットワーク】 新見地域医療ネットワークへ国保部門が参画し、多職種の連携を図る。 【医療・介護多職種連携会議】 医療・介護多職種連携会議へ国保部門が参画し、多職種の連携を図る。
生活習慣病重症化予防	糖尿病重症化予防	糖尿病の知識及び血糖管理の保健指導を行い、糖尿病重症化を防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> 【糖尿病対策連絡会】 開催数:3回 参加者:糖尿病専門医、糖尿病療養指導士、保健所、健康づくり課、市民課 		<ul style="list-style-type: none"> R1年度から市主催で糖尿病対策連絡会を開催し、新見市の糖尿病対策について課題を共有した。医師会、医療機関、行政が連携し、糖尿病性腎症重症化予防事業をはじめとした糖尿病施策について、助言を受けながら実施することができた。 		<ul style="list-style-type: none"> 【糖尿病対策連絡会】 引き続き糖尿病対策連絡会を開催し、糖尿病専門医療機関と連携して、新見市の糖尿病事業について検討し、より効果的な保健事業に繋げる。
			<ul style="list-style-type: none"> 【糖尿病性腎症重症化予防事業】 糖尿病未治療者受診勧奨20人実施 糖尿病腎症保健指導利用勧奨29人実施 	<ul style="list-style-type: none"> 病院受診15人(75%) 病院未受診4人(20%) 受け取り拒否1人(5%) 保健指導参加9人(31%) 改善1人 維持1人 継続中7人 新規人工透析患者数 H30:6人 R1:4人 	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病未治療者受診勧奨は「糖尿病要医療者連絡票」を用いた医療機関との連携の効果がみられ、目標の50%を上回った。しかし、依然として受診しない4人については来年度以降もフォローが必要。 保健指導参加率が低く、目標値40%に届かなかった。本人が様々な理由で断られるケースが多く、利用しやすい回数・期間など検討が必要。参加者は体重・血圧管理、減塩指導等実施し、自己管理の意識が全員向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> 受診率: 80% 保健指導参加率: 40% 	<ul style="list-style-type: none"> 【糖尿病性腎症重症化予防事業】 R1年度・R2年度健診結果から①HbA1c8.0%以上②HbA1c6.5%以上かつ(尿蛋白+以上又はeGFR60未満)の者に対して、R2年度も受診勧奨及び保健指導を行う。H30年度、R1年度対象者のフォローも実施する。 課題としているR1年度健診未受診者のうち糖尿病治療中断者を訪問し、受診勧奨する。
			<ul style="list-style-type: none"> 【糖尿病性腎症重症化予防セミナー】 講師:糖尿病専門医、管理栄養士(栄養士会) 第1回参加者7人(22.5%) 第2回参加者4人(12.9%) 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果 ・知識深まった100% ・新たに取り組む(減塩等)75% ・今後も参加したい100% 	<ul style="list-style-type: none"> R1年度初めて糖尿病性腎症重症化予防セミナーを開催した。講話、グループワーク、調理実習を実施し、参加者同士の情報交換を図った。しかし、参加率が低かったため、来年度は受講しやすい時間帯や関心を引く内容など、参加者を増やす工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> セミナー参加率: 30% 	<ul style="list-style-type: none"> 【糖尿病性腎症重症化予防セミナー】 糖尿病対策連絡会にて内容を検討し実施する。糖尿病性腎症重症化予防事業対象者に参加を募る。
<ul style="list-style-type: none"> 【糖尿病個別栄養指導】 医師会、医療機関と連携し、各医療機関にポスターを提示し対象者を募った。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用数3人 ・哲西診療所2人 ・神代診療所1人 改善1人 継続中2人 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度初めて神代診療所からの依頼があり実施した。ただし栄養指導依頼件数が伸びないため、主治医に利用してもらいやすいような工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養指導利用数:5人 	<ul style="list-style-type: none"> 【糖尿病個別栄養指導】 引き続き、管理栄養士不在の医療機関を対象に、主治医からの紹介による個別栄養指導を実施する。利用してもらいやすいための工夫として主治医からの「栄養指導確認書」の様式を簡易なものに変更し、再度PRする。 			

新見市国民健康保険保健事業計画(第2期データヘルス計画)令和元年度評価・令和2年度計画

別紙

事業名	目的	評価指標		評価	令和2年度	
		事業実施量評価 (アウトプット)	結果評価 (アウトカム)		目標	計画
生活習慣病重症化予防	高血圧予防	<ul style="list-style-type: none"> 健康教室参加者数 33回、延567人 	<ul style="list-style-type: none"> 血圧有所見者の割合(収縮期130以上・拡張期85以上) H30 収縮期47.2% 拡張期23.4% R1 収縮期50.4% 拡張期24.3% 	<ul style="list-style-type: none"> 経年的に見ると高値者訪問対象者は同一の者が多く、意識や生活面での改善にまで至っていないことが伺える。正しい知識を理解した上での生活習慣の見直しが図れるよう取り組みを行っていくとともに、今年度、おでかけ健康教室で実施したアンケート結果を分析し、次年度の事業を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 血圧有所見者の割合の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 【高血圧症重症化予防及び高血圧症予防の取組】 特定健診結果で血圧160/100以上の者を対象に受診勧奨訪問を行う。 家庭血圧の重要性や正しい血圧の測り方等を健康教室等で伝える。 減塩の大切さの周知を図る。
	運動習慣づくり	<ul style="list-style-type: none"> 健康教室(運動コース)参加者数 169回、延2,683人 ラジオ体操講習会参加者数 R1 160人 健康チャレンジポイント申込者数 R1 446人 達成率 R1 75.3% (336人) クアオルト健康ウォーキング参加者数 R1 342人、延480人 新規参加割合 R1 69.6%(238人) 30～50代の参加者割合 21.6%(74人) 	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣がある人の割合(KDB地域の全体像の把握) H30 37.7% R1 37.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくり連絡会でラジオ体操に関するチラシを作成し、普及啓発を行った。 働く世代への運動のきっかけ作りとして、にいみ健康チャレンジポイントの参加形態を改善したことで、新規参加者、若い年代の参加者が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣のある人の割合の増加 健康チャレンジポイント新規参加者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 【運動習慣定着化への取組】 企業や各種団体等へ、ラジオ体操を取り入れてもらうよう啓発する。 正しいラジオ体操を学ぶため、ラジオ体操講習会を実施する。 新規参加者を中心に参加を呼びかけ、にいみ健康チャレンジポイントを実施する。 クアオルト健康ウォーキングは、毎週ウォーキング・イベント型ウォーキング・予約型ウォーキングに加え、サンデーウォーキングを新規に実施する。
	禁煙・分煙の推進	<ul style="list-style-type: none"> 禁煙・分煙を推進し、タバコの害から健康を守る意識を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発活動実施状況 禁煙治療費助成制度利用者数 H30 10人 R1 10人 	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙率(KDB地域の全体像の把握) H30 10.3% R1 10.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 助成制度の検証を行った結果、喫煙再開者が半数いる等助成制度の効果が十分ではないため、令和元年度で助成事業は終了。 	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙率の減少

新見市国民健康保険保健事業計画(第2期データヘルス計画)令和元年度評価・令和2年度計画

別紙

●法定事業及び医療費適正化対策事業計画

事業名	目的	評価指標		評価	令和2年度		
		事業実施量評価 (アウトプット)	結果評価 (アウトカム)		目標	計画	
高齢者医療確保法・保健事業	特定健診	内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防の保健指導者抽出	<ul style="list-style-type: none"> 実施医療機関との情報交換を行った。 「詳細な健診」項目設定(心電図・眼底検査・貧血検査・血清クレアチニン検査) 	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診受診率(法定報告) H29 38.2% H30 35.7% 特定保健指導対象者割合 H29 11.6% 30 10.7% 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度の受診率はH29年度から低下している。H30年度は人間ドック医療機関のうち、1医療機関が人間ドックを中止した影響が大きいと考えられる。今後も医療機関と連携し、様々な対策を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診受診率 40% 特定保健指導対象者割合 9% 	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診実施機関との情報交換を行う。 個別検診:12医療機関 集団検診:11会場、28日間 詳細な項目の眼底検査の対象者を健診当日に把握できるように設定。
	特定保健指導	特定保健指導を実施し、生活習慣病予防のために生活習慣改善(行動変容)を促す	<ul style="list-style-type: none"> 特定保健指導実施機関との情報交換。 個別支援:7実施機関 グループ支援:1実施機関 特定保健指導 H29 対象者224人 H30 対象者187人 	<ul style="list-style-type: none"> 特定保健指導終了率(法定報告) H29 23.2%(50人) H30 20.3%(38人) 保健指導脱落者 H29 0人 H30 8人(死亡・入院等) 教室終了後、行動変容:H30 42.3% 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度の保健指導終了率はH29年度から低下しており、保健指導脱落者が8人あった影響が大きいと考えられる。保健指導において生活習慣改善を促し、行動変容がみられた割合は42.3%であった。引き続き、保健指導の積極的な利用勧奨を継続し、生活習慣改善を促していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定保健指導終了率:27.0% 行動変容 50% 	<ul style="list-style-type: none"> 特定保健指導実施機関との情報交換を行う。 個別支援:7実施機関 グループ支援:1実施機関
医療費適正化対策事業	後発医薬品の利用促進	後発医薬品に切り換えた場合のメリットを伝え、利用促進を図る	<ul style="list-style-type: none"> 差額通知数 H30 879通(年3回) R1 686通(年3回) 	<ul style="list-style-type: none"> 後発医薬品普及率(削減不可分を除く)(1年移動平均) H30 数量71.5% 金額48.7% R1 数量74.9% 金額50.7% 	<ul style="list-style-type: none"> 後発医薬品普及率は数量、金額ともに年々増加しており、差額通知の効果もみられていると考えられる。しかし、目標値の80%には到達していない。差額通知を送付するほか、保険証やお薬手帳に貼り付けるお願いシールを保険証発送時に同封し、全世帯に配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> 後発医療費普及率:数量 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 差額通知を年3回実施する。 ジェネリック医薬品希望カードを同封する。
	医療費通知	受療した医療費の総額を対象者に確認してもらい、適正な受診等に役立ててもらう	<ul style="list-style-type: none"> 医療費通知数 H30 20,729通(年6回) R1 14,605通(年4回) 	<ul style="list-style-type: none"> 1人あたり年額医療費 H27 471,190円 H28 463,549円 H29 462,313円 H30 460,457円 県との比較(県100) H30 110.3% 	<ul style="list-style-type: none"> 医療費通知は国保広域化により通知回数はいずれも統一されている。1人あたり医療費はH27年度をピークに減少しており、医療費通知の効果もみられていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人あたりの年額医療費を県と比較して100%に近づける 	<ul style="list-style-type: none"> 医療費通知を年4回実施する。
	重複頻回受診者訪問事業	不適正受診を是正し、健康管理について支援する	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導実施数 H29 4人 H30 5人 R1 5人 1人あたり年額医療費 H29 462,313円 H30 460,457円 	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導後の受診行動 H29 改善3人 H30 改善1人 R1 改善1人(医療費 9,980円改善) 	<ul style="list-style-type: none"> 重複受診者の訪問指導は、対象者が5人で、全数訪問している。受診行動の改善は20%程度で、一定の効果はみられている。近年は経皮鎮痛消炎剤、消化性潰瘍治療薬、催眠鎮静剤等の重複がある。対象者は医療費を必要以上には使っていないと思っている人が多いため、引き続き、保健指導の実施方法の見直しや改善を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導実施者全員の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導対象者を抽出し、保健指導を実施。